

項目	取組状況
教育	<p>◆ 平成 29 年度担当科目 基礎工学演習Ⅰ・Ⅱ（2 年）、電子回路（4H）、人間工学（5H）、リスクマネジメント（専2）、工学特別実験実習（専2）</p> <p>◆ 担当科目の取組状況（工夫・改善した点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎工学演習Ⅰ・Ⅱでは前半6回分の読み切りの漫画を作成し、授業で利用した ・電子回路では復習テストを授業の最初におこなうことで、基礎を固めることに利用した。 ・人間工学及びリスクマネジメントでは授業用パワーポイントを作成し、学生に閲覧できるようにしている。 ・工学特別実験実習では、企業から課題をもらって、学生によるグループで取り組ませた。実際に工場見学をおこない、学生の眼で見て確認をしてもらってから、課題に取り組ませた。発表会には企業の方にも参加してもらった。 <p>◆ 特記すべき教育方法の実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎工学演習Ⅰ・Ⅱにおいて、前半は、漫画を読む⇒穴埋め問題をする⇒フォロー授業 という形態をとり、後半は、解説⇒演習 という学生に演習をさせる時間を多くとった。
研究	<p>◆ 平成 27～29 年度における研究業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 学術論文執筆 <ul style="list-style-type: none"> ・金田忠裕、藪厚生、安藤太一、大崎純平、川崎直哉、ユニットの組み合わせによって構成可能なロボットアーム教材の開発、日本産業技術教育学会誌、第 59 巻、第 4 号、2017 年 pp.273-279. ・Keiko Nakatani, Takeshi Wada, Tomoharu Doi and Tadahihiro Kaneda, Promotion of self-growth of students by PBL-type manufacturing practice、Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.29, No.6, (2017), pp.1037-1048. <p>他5件</p> ■ 学術講演会での発表 <ul style="list-style-type: none"> ・金田忠裕、木村勇佑、藪厚生、川崎直哉、組合せ可能なロボットアーム教材の改良、計測自動制御学会第 16 回システムインテグレーション部門学術講演会（SICE SI2016）講演論文集、札幌コンベンションセンター、2016 年 12 月 17 日、pp.2908. ・金田忠裕、中道誠樹、椿崇裕、藪厚生、全方位クローラの製作、日本機械学会ロボティクスメカトロニクス 2017 講演会講演論文集 CD-ROM 番号 2P2-I12, ビッグハットふくしま（福島県郡山市）2017 年 5 月 12 日. <p>他26件</p> <p>◆ 平成 27～29 年度における外部資金獲得状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金 平成 26 年度～28 年度基盤研究（C）（一般）「組み合わせが可能なロボットアーム・ハンド教材の開発」（270 万円） ・平成 27 年度高専—長岡技大共同研究の推進「高専におけるシステム安全基礎に関する授業の構築」（15 万円） <p>他2件</p> <p>◆ 学会などでの受賞</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・高専教育論文賞「Q-U を用いた高専生の価値観の解析と学習・進路に及ぼす影響」(共著), 論文集「高専教育」第38号, H27/8.
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 27～29 年度における公開講座・出前授業の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・大東市ものづくり講座「ボタン制御ロボット」、H28/7 ・八尾市生涯学習センターなつやすみこども講座「風で動くロボット♪ウィンドウォーカーをつくろう」, H28/8 他38件 ◆ 平成 27～29 年度における学協会等の委員 <ul style="list-style-type: none"> ・日本高専学会 理事 事務局担当 (H27 年度から) ・日本工学教育協会 編集・出版委員会委員 (H23 年度から) ◆ 特記すべき社会貢献の内容 校長顕彰 (2011 年から連続)